

ショートコメント vol.353 (2025年2月18日)

テーマ：街角景気にみる万博への期待感 ②

～関連コメント数は前月から2倍以上に増加～

●街角景気の直近の状況

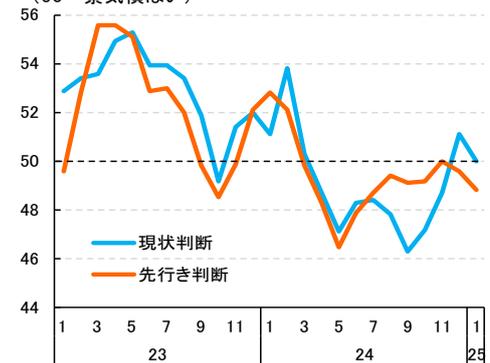
街角景気として知られる、内閣府「景気ウォッチャー調査」の1月調査結果が公表された。

現状判断については、訪日客の増加や気温要因による冬物消費の好調などに対し、インフレによる悪影響や年末年始での出費による反動減が大きく、4か月ぶりの低下となった(図表1)。

先行き判断についても、インバウンドの増加や賃上げ効果への期待感はあるものの、長引くインフレへの警戒のほか、米国トランプ大統領の就任による外部環境の不透明感もあり、若干の低下となっている。

特に、実質賃金の前年割れが続く中、足元は消費者の節約志向が根強い。今後も物価の上昇傾向には変化がないことから、消費の基調については慎重な見方が少なくない。

【図表1】 (関西)景気ウォッチャー調査の現状・先行き判断 (50=景気横ばい)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」、以下同じ

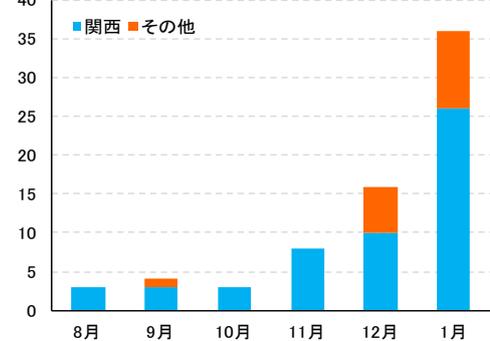
●先行き判断と万博の開催

一方、大阪・関西万博の開催が4月に迫っていることで、先行き判断における万博の影響に注目したい。

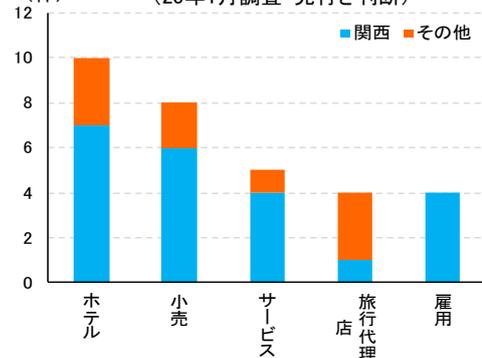
景気ウォッチャー調査では、景気判断に付随する形で、その判断の根拠となる定性コメントも聴取している。そこで先行き判断にかかる定性コメントのうち、万博への言及の推移をみたところ、1月調査は36件と前月(16件)から2倍以上の増加となった(図表2)。

まだ関西が中心ではあるものの、その他の地域でも10件となるなど、一定の関心が高まりつつあることは間違いない。なお、その他の地域の内訳としては、中国が3件、東海が2件、四国が2件などとなっている。

【図表2】 (全国)万博関連のコメント件数 (先行き判断)



【図表3】 (全国)万博関連の業種別コメント件数 (25年1月調査・先行き判断)



●万博コメントの業種分布

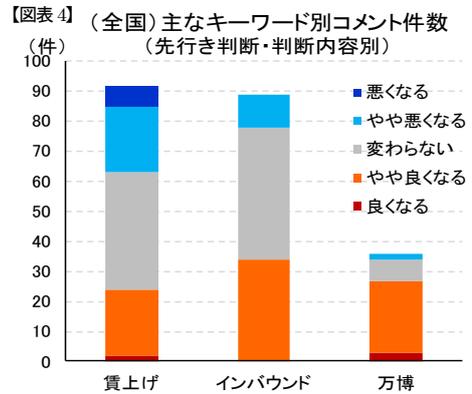
一方、1月調査で万博に言及のあった業種に注目すると、ホテル関連でのコメント数が10件となったほか、百貨店を中心とした小売が8件、飲食やタクシーなどのサービス関連が5件となっている(図表3)。この辺りは来場者による客足に増加を期待したものといえよう。また、関西では雇用関連が4件となっているが、万博関係での派遣需要がすでに始まっていることも、大きな期待材料となっている。

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

●先行きのプラス材料

なお、景気の先行きにかかる、その他のプラス材料については、もちろん万博以外のものも多い。たとえば、コメント数は「賃上げ」関連や「インバウンド」関連が万博を大きく上回っている（図表 4）。この点でいえば、先行き判断全体に占める万博の位置づけは、まだ限定的といわざるを得ない。

ただしコメントに寄せられる期待感でいえば、万博は決して劣っておらず、「やや良くなる」、「良くなる」といった景気判断の分布状況は、賃上げ関連を大きく上回っている。12月調査から1月調査にかけてコメント数が倍増したように、今後も開催が近づくにつれて、期待感は一気に高まるものとみられる。関西での高まりはもちろん、地域的、業種的な広がりがあることが出てくるかが引き続き注目される。



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。